

2006年度(平成19年3月期) 決算説明会

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 宮武 健次郎

2007年5月11日

2006年度決算の概要

2006年度決算のポイント(業績予想との比較)

- 売上高は予想通りの結果
- 原価率の改善や販売費・研究開発費の効率的使用に努めたため、営業利益・経常利益は増益
- 新たな特別損失項目が発生したため、結果的に当期純利益は予想通りの水準に

経営成績

業績予想との比較

	06年度		増減額
	業績予想	実績	
売上高	2,600	2,612	12
営業利益	420	456	36
経常利益	405	432	27
当期純利益	220	226	6

前期比較

金額単位：億円

前期実績	増減額	増減率
2,458	154	6.3%
289	167	57.7%
272	159	58.5%
154	72	47.0%

(注) 記載金額は億円未満を四捨五入しております。
 前期の業績に、合併前の旧住友製薬(株)の数値を含んでおりません。

財政状態

金額単位：億円

	前期末 (2006年3月31日)	当期末 (2007年3月31日)	増減額
資産の部	3,930	3,825	△104
流動資産	2,497	2,343	△154
固定資産	1,432	1,482	50
負債の部	1,043	765	△278
流動負債	801	560	△240
固定負債	243	205	△38
純資産の部 (※)	2,886	3,060	174
(自己資本比率)	73.2%	79.8%	

(※) 当期の表示区分に組み替えております。

(資産の部)

・販売提携解消や回収期間短縮による売上債権の減少…△257億円

(負債の部)

・販売提携解消等買掛債務の減少……………△207億円

キャッシュ・フロー

金額単位：億円

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 379
・税金等調整前当期純利益	+ 384
・売上債権の減少額	+ 257
・仕入債務の減少額	△ 207
・法人税等の支払額	△ 122
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 197
・3ヶ月超の定期預金等の純増額	△ 50
・有形固定資産の取得	△ 74
・投資有価証券の取得	△ 53
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 78
・借入金の減少	△ 21
・配当金の支払	△ 56

当期末現金及び現金同等物残高 817億円(前期末+104億円)

2006年度決算の概要

単純合算との業績比較

2006年度決算のポイント(単純合算ベース前期比較)

- 薬価改定・販売提携解消や工業所有権収入の減少により減収
- コストシナジーの発現本格化により販売費及び一般管理費が減少し、営業利益・経常利益は微増益
- 当期は特別損失のみの計上となったため、当期純利益は減益

経営成績(単純合算による比較)

金額単位: 億円

	05年度実績	06年度実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	3,182	2,612	△ 570	△ 17.9%
営業利益	447	456	9	2.0%
経常利益	422	432	10	2.3%
当期純利益	253	226	△ 27	△ 10.5%

(注) 記載金額は億円未満を四捨五入しております。

売上高の増減要因

金額単位：億円

	05年度実績	06年度実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	3,182	2,612	△ 570	△ 17.9%

(減収要因)

- ・アボット ジャパン株式会社等との販売提携解消の影響
- ・工業所有権収入の減少
- ・薬価改定の影響

(増収要因)

- ・戦略4製品を中心とした医薬品の販売数量増

戦略4製品の売上高

金額単位：億円

	05年度 実績	06年度 実績	前期比		06年度 予想
			増減額	増減率	
アムロジン	568	592	23	4.1%	590
ガスモチン	163	185	21	13.1%	190
プロレナール	126	138	12	9.4%	140
メロペン	141	143	2	1.2%	145
戦略品目 計	999	1,057	58	5.8%	1,065

(注) 売上高は、国内売上高・リベート控除前で記載しております。

売上原価・販売費及び一般管理費の内訳(単純合算との比較)

金額単位: 億円

	05年度実績		06年度実績		増減額
		対売上高 比率		対売上高 比率	
売上高	3,182	—	2,612	—	△ 570
売上原価	1,521	47.8%	993	38.0%	△ 528
売上総利益	1,661	52.2%	1,619	62.0%	△ 42
販売費及び一般管理費	1,214	38.2%	1,163	44.6%	△ 51
販売費・一般管理費	796	25.0%	754	29.0%	△ 41
研究開発費	418	13.1%	409	15.6%	△ 10
営業利益	447	14.0%	456	17.4%	9

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

- ・仕入品の減少や主力品目の増加により品目構成が変化

(販売費及び一般管理費)

- ・人件費の減少
- ・販売促進費や運送費等の減少

営業外損益及び特別損益の内訳(単純合算との比較)

金額単位:億円

	05年度実績	06年度実績	増減額
営業利益	447	456	9
営業外収支	△ 25	△ 24	1
金融収支(受取配当金を含む)	5	9	4
寄付金	△ 20	△ 19	2
その他	△ 9	△ 14	△ 5
経常利益	422	432	10
特別損益	△ 9	△ 48	△ 39
投資有価証券売却益	19		△ 19
固定資産売却益	18		△ 18
厚生年金基金代行部分返上益	8		△ 8
事業譲渡関連益	45		△ 45
特別退職金	△ 6	△ 29	△ 23
訴訟関連費用		△ 10	△ 10
退職給付制度改定に伴う損失		△ 6	△ 6
固定資産減損損失		△ 2	△ 2
合併関連費用	△ 82		82
事業整理に伴う損失	△ 10		10
法人税等・少数株主利益	△ 161	△ 158	2
当期純利益	253	226	△ 27

2007年度業績予想の概要



2007年度業績予想

金額単位：億円

	06年度	07年度		09年度
	年間実績	年間予想	増減額	(目標)
売上高	2,612	2,730	118	2,950
営業利益	456	460	4	500
経常利益	432	440	8	—
当期純利益	226	260	34	300
研究開発費	409	480	71	550

売上原価・販売費及び一般管理費の内訳

金額単位：億円

	06年度実績	対売上高 比率	07年度予想	対売上高 比率	増減額
売上高	2,612	—	2,730	—	118
売上原価	993	38.0%	1,020	37.4%	27
売上総利益	1,619	62.0%	1,710	62.6%	91
販売費及び一般管理費	1,163	44.6%	1,250	45.8%	87
販売費・一般管理費	754	29.0%	770	28.2%	16
研究開発費	409	15.6%	480	17.6%	71
営業利益	456	17.4%	460	16.8%	4

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上高)

- ・戦略4製品を中心とした医薬プロモーション品の伸長

(販売費及び一般管理費)

- ・企業認知度向上施策(テレビコマーシャル等)、e-テール等販売支援策の積極的实施
- ・ルラシドンの海外自社開発等戦略的研究開発投資の実施

中期経営計画のスタート (本年度の取り組み)



中期経営計画 基本方針

グローバル化に向けた事業基盤の整備・強化

1. 国内収益基盤の強化
2. 新薬継続創出に向けた体制の強化
3. 海外事業展開に向けた体制の整備
4. 戦略的提携の強化
5. 継続的な経営効率の追求
6. DSPマネジメントの確立

国内収益基盤の強化(1)

■ 戦略4製品への営業資源の集中

	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (計画)	09年度 (目標)
アムロジン	568	592	660	580
ガスモチン	163	185	210	280
プロレナール	126	138	160	180
メロペン	141	143	155	160
計	999	1,057	1,185	1,200

(注) 売上高は、国内売上高・リベート控除前で記載しております。

国内収益基盤の強化(2)

- 新製品の早期最大化への取り組み
 - アムビゾーム： 早期に抗真菌症薬のスタンダード薬の地位を確立
 - セイブル： 三和化学と連携し、売上最大化への基盤作り
 - 新製品上市に備えたCNS専任MRの増強

- IT活用による情報提供機能の拡充
 - e-ディテールの積極活用： ガスモチン、アムロジン、キュバール
 - 医療関係者ホームページの充実、活用
 - 「統合コールセンター(仮称)」の開設に着手

- 企業ブランド力の強化
 - 企業認知活動の継続実施

新薬創出力の強化

■ 初期研究テーマの充実

- 研究者のテーマ発案の奨励
- 外部研究機関との提携強化
 - ー バイオベンチャー、アカデミアとの共同研究の拡充
 - 3研究指向領域で検討中
 - ー バイオベンチャーファンド「アポジット」への投資

■ 研究効率の向上

- 優先テーマへのリソースの重点配分
- 創薬基盤技術の拡充
- 研究チーム制の推進

■ 製品創出に貢献できる人材の育成

- 研究人材企画室の設置

臨床開発の現況

申請中	第Ⅲ相試験	第Ⅱ相試験		第Ⅰ相試験
統合失調症治療剤 AD-5423 (プロナゼリン)	発熱性好中球減少症 メロベン	糖尿病合併症治療剤	糖尿病治療剤	気管支喘息治療剤 (米国)
高血圧症治療剤 イルベサルタン	糖尿病合併症治療剤 (米国・カナダ) AS-3201 (ラニレストット)	AS-3201 (ラニレストット)	SMP-508 (レバグリニド)	SMP-028
パーキンソン病 AD-810N (ゾニサミド)		肝細胞癌治療剤 SM-11355 (ミプラチン)	糖尿病治療剤 SMP-862 (メホルミン)	
C型代償性肝硬変 スミフェロン		統合失調症治療剤 SM-13496 (ルラシドン)	認知症治療剤 AC-3933	
静脈内投与 エフェドリン 「ナガキ」		関節リウマチ治療剤 SMP-114	頸椎症 プロレナール	
		統合失調症治療剤(米国・欧州等) SM-13496 (ルラシドン)	統合失調症治療剤(米国・欧州)	
		(第Ⅲ相試験準備中)	AD-5423 (プロナゼリン)	
		認知症治療剤(米国・欧州) AC-3933	過活動膀胱治療剤(米国・欧州)	
		関節リウマチ治療剤(欧州) SMP-114	SMP-986	

● 国内開発(新有効成分)
 ● 国内開発(適応症追加等)
 ● 海外自社開発

今回の変更を白抜き文字で表示

海外開発機能の整備・強化

- **ルラシドンの海外臨床試験の推進**
 - 現在、米国、欧州等でのフェーズⅢを準備中

- **欧米子会社の機能強化・人員増強**
 - DSPA(ニュージャージー)、DSPE(ロンドン)の増員
-現在の人員約70人を約100人に増員
 - DSPAを中心にルラシドン・チームを設置

連結配当性向30%の実現に向けて

2009年度(目標)

配当性向: 30%

EPS: 75円

2007年度(見込み)

配当性向: 27.5%

EPS: 65.41円

配当金: 18円/株

2006年度

配当性向: 24.6%

EPS: 56.86円

配当金: 14円/株

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。